

Minuma Shun Sai 見沼・旬彩

2018年春号 vol.7



信和ファーム・ねぎた宜田さんのトマトハウス栽培

緑区三浦の基幹農道脇に、3年前から「トマトのハウス栽培」が1,800m²ほどの大きなハウスで経営されています。それまで、空家状態だったハウスを借り受けでの経営とのこと。経営を任せられている宜田孝行さんは、親会社では、農業とはまったく関係のない普通のサラリーマンだったとのことで、1年間の技術指導を受け、3年前から、「トマトのハウス栽培」に取組んでいることです。

経営的には、まだ研究途上で、安定した栽培の確立には、夏から秋にかけての栽培の安定が課題とのこと

です。出荷はさいたま市農協の木崎の直売所「シャキシャキ」やスーパー・マーケットなどとのこと。ヤシガラの土壤と液体肥料、炭酸ガスの供給など、新たな技術を活用しての若い経営者さんによるトマトハウス栽培が、見沼たんば地域でも始まっています。

直売期間 5月～6月 連絡先 TEL.090-2170-3231

トマトハウスの所在地 さいたま市緑区三浦163 三浦運動公園東200m

信和ファーム(株) 新宿区市ヶ谷本村町2-5



菜の花まつり・緑区会場(さいたま市農業委員会)



見沼たんぼの米作りを守ろう

子ども達に、安心なお米を食べさせてあげたい

丸ヶ崎 斎藤農園

見沼区最北に位置する丸ヶ崎地区には、さいたま市随一の広さを誇る33haの水田が残っています。平成27年農林水産省の地域資源保全地区に指定され、地域で水田保全に取り組んでいます。斎藤農園・斎藤武さんは、12年前から父のあとを継いで本格的に米作りを始め、現在耕作面積は6haと大規模に展開しています。

収穫した米は、サラリーマン時代に習得した営業センスで販路を切り開き、自ら販売しています。40年以上続いている太鼓の腕前はプロ級、昼はトラクター、夜は太鼓の指導と休む間もありません。

28年度からは思い切って粉の消毒・田植え時の病害虫予防の農薬を不使用にし、手間のかかる温

湯消毒に切り替えました。人体への影響が心配されるネオニコチノイド系農薬など動物毒性があるものから使用をやめることにしました。

7人のお孫さん達が「じいじのお米はおいしい!」と言ってくれるのが何よりうれしいそうです。小まめに草刈りした畦道は、オオイヌノフグリ、シロツメクサ、スミレに彩られていました。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・企画展「田んぼ」3/17(土)~5/6(日)で、丸ヶ崎水田の米作りが紹介されています。訪れてみて下さい。丸ヶ崎直売所でも購入できます。

斎藤農園ホームページ

<http://www.saito-no-en.com>

丸ヶ崎直売所 見沼区丸ヶ崎17-1

TEL.048-687-2045

営業日時 火・木・土 12:30 ~ 16:00



▲斎藤武さん

『五穀米の炊き込みご飯』



最近、胃にやさしい食事が好まれているようです。麦もいいけれどポリフェノールたっぷりの黒米、赤米など健康のため毎日の食事に取り入れたいですね。

- ・米2合・五穀米大さじ1
- ・お湯でゆがいてしづつた大根葉100gにダシ醤油をかけておく
- ・大和芋は皮をむいて30分ほど水にさらしてアクを取る
- ・刻みのり少々
- ・卵黄1

五穀米が炊き上がったら、用意しておいた大根葉を混ぜ込みます。大和芋のすり下ろしをのせ、刻みのりを添え、卵黄をのせたら醤油をお好みでかけていただきます。

見沼・地産地消 みぬマルシェ

- 開催日時:毎月最終水曜日 12:30~15:00
- 場所:さいたま市見沼区役所前駐車場及びホール
- 出店農家:オーガニック・ハーベスト丸山、小澤農園、尾関ファーム、野本農園、ひざこサンショクG、前田農園、他

見沼地域で愛情いっぱいに育てられた農産物を生産者自ら販売。新鮮でおいしい、その上安い。そして生産者に直接会って食べ方を聞いたり交流できる、と回を重ねる毎に好評です。「見沼区の食」からふるさと見沼の魅力を広げることを目的に組織された実行委員会によって運営されています。



花と緑の祭典(春の園芸まつり)

- 開催日時:5月3日(木・祝) ~ 4日(金・祝)
3日、9:00 ~ 16:00、4日、9:00 ~ 15:00 ※雨天決行、一部中止
- 会場:市民の森・見沼グリーンセンター
- アクセス:JR宇都宮線 土呂駅より徒歩約10分または、東武アーバンパークライン(野田線) 大和田駅より徒歩約20分



「花と緑の祭典」ゲート



国際友好フェア 写真は昨年の花と緑の祭典の模様



5月の連休中に開催される、さいたま市主催の「春の園芸まつり」「シビックグリーンさいたま」「国際友好フェア」の3イベントです。

「春の園芸まつり」では野菜などの農産物・植木・花卉・苗木などの即売、盆栽・洋蘭などの展示と即売、「シビックグリーンさいたま」は緑化推進のPR活動のほか、花いっぱいコンクール、「国際友好フェア」は外国文化の紹介をはじめ、民族料理・民族品の展示販売や民族舞踊・音楽の演奏などが催されます。



市民の森農産物直売所

見沼区、北区の消費者から、大変人気のある農産物直売場です。土曜日／日曜日の朝、開店前より、数十人の列ができるほど固定客があり、人気があります。小澤会長、他28名の農家会員で構成されており、団結力の強い直売所であり、地元の豊富で新鮮な農産物(野菜・果物・米・花・シイタケ・卵等)が販売されています。

北区見沼2-94 (市民の森・見沼グリーンセンター内)

TEL.090-2162-6553 (直売所)

営業日時 土・日 10:00 ~ 16:00



▲小澤会長（右から二人目）
と農家のみなさま

市民の森の通りにある看板▶



ファミリー割烹みなみ



店主の長坂さんは27歳の時、ここ見沼区大谷に開店し今年で25年になります。「一つ一つ真心をこめて家族を思う母のように」をモットーに、近隣の方に人気のファミリー割烹です。昼ランチは820円～と気楽に和食を楽しめるお店ですが、夜は割烹居酒屋としてふぐコース4,000円の他、豊富なメニューで地元の方で賑わっています。

こだわりの厚焼き玉子も県産の彩たまごを、そして地

中村農園

春岡小の西隣の住宅街にできたおしゃれな個人直売所で、旬の野菜を一年中取扱い、種類も豊富です。この時期も隣の畑やビニールハウスで作るトマト・カブ・芽キャベツ・大根が並び、常に新鮮そのもの。時折サプライズで季節の花、果物、手作りパンやコーヒー豆等も扱うのでお客様も楽しみにしています。3世代家族で経営しており、じいちゃんが作る長芋もおいしいと評判です。丸ヶ崎のたんぽで作るコシヒカリも人気です。

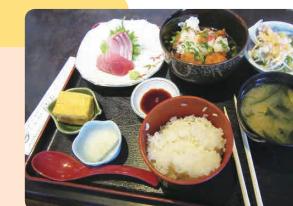
野菜売場の隣は手作りアクセサリーや小物を販売するコーナーです。アットホームで楽しい店作りなので、近隣の方ばかりでなく車で来店の方にも喜ばれています。店頭には定休日や15時以降のお客さん用に無人コイン販売機も置くような、細かい気配りが感じられます。

見沼区春岡2-28-3 TEL.048-684-4421

営業日時 水・木・土・日 10:00 ~ 15:00



左から中村さん、熊谷さん▶



元のクワイ・八頭も使用していますが、これからも積極的に地元の野菜・根菜類をメニューに取り入れていきたいとのお話を。

見沼区大谷 1751-1 (大谷通りの大谷中を越えて、マルエツの手前) TEL.048-683-9397

営業日時 定休日無し ランチ: 11:30 ~ 14:00、夜: 17:00 ~ 23:00

しまむら種苗店

農業を支えてくれる農家さん。その農家さんを支えているのが種屋さん。

花月交差点の先、463号(浦和越谷街道)と第二産業道路の交わる手前にある「しまむら種苗店」は、昭和23年の創立からずっと、地域の農業を支えてきました。野菜や花の種・苗はもちろんのこと、農業資材、農業用ビニールハウス、農薬、肥料などを扱っています。Webページやブログの商品情報も必見です。ネット購入もできます。

緑区中尾327 TEL.048-873-5473 (月曜定休)

www.shimatane.jp

blog.goo.ne.jp/shimatane

島村義信さん▶



細沼和明さんの礫(れき)耕栽培トマト

直売所でトマトの袋を手に取ると、そばから「これ、美味しいのよね~。」と声をかけられました。

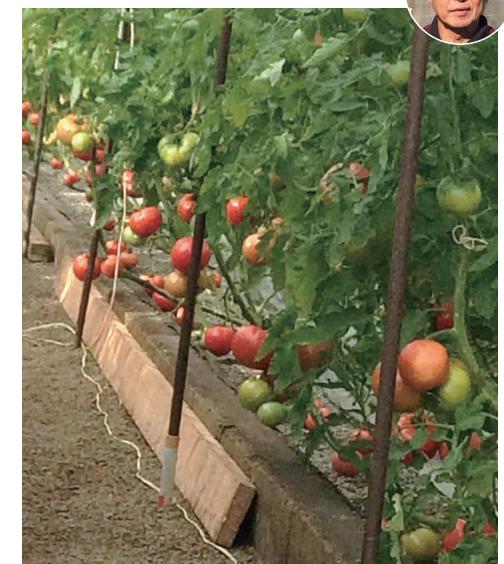
五分砂利ほどの「礫」を用いる方法で栽培されている細沼さんの礫耕栽培トマト。味が濃くて美味しいと、直売所で人気のトマトです。おいしさだけでなく、安心して食べてもらいたいと、農薬を使わずに育てています。下記直売所で取り扱っています。

大和田直売所(火・木・土 13:30 ~ 17:30)

JA木崎ぐるめ米ランド(年末年始を除き年中無休 10:00 ~ 18:00)

土呂直売所(火・木・土 14:00 ~ 17:00)

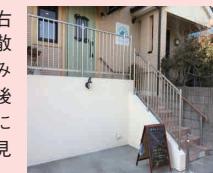
細沼和明さん▶



見沼代用水川辺を散歩コースとしている方にお勧め! ティーハウス「Cha-no-ma」ちやのま

東浦和駅を背にして、右手に代用水を見ながらの散歩は四季それぞれの楽しみがあります。今年の大雪後はここに春の芽吹きと共に幸せをいっぱいに感じる見沼エリアです。

そんな西縁の浦和明の星高校の手前の住宅地の中に昨年、オシャレなティーハウスに改装した「Cha-no-ma」がオープン。立ち寄る人が増えているとの評判を



耳にしました
ので気になり、
出かけて参りました。

プランチメ

ニューはどれもリーズナブルな価格とボリュームで、しかもホームメイドならではの美味しさです。散歩のついでに立ち寄ってはいかがでしょうか。

緑区東浦和 5-25-8 TEL.048-874-6359

営業日時 定休日 水・木曜・祝日 10:30 ~ 17:00

見沼・旬彩

大島園芸の春の花



▲サイネリア

大島園芸は綾瀬川流域、東武野田線に隣接し岩槻インターにも近い好立地。若い大島弘行さん夫妻が3代目として頑張っています。取材に訪れた2月末、沢山あるハウスの中は色とりどり、2万数千鉢の“卒業式の花”として重宝されるサイネリアが一面に並び壯觀! 主に東京の大田市場などへ出荷するそうです。このあとはスイレン、マリーゴールド、アスターなどが続きます。

花の購買層は60代、70代のシニアが中心とか。これからは若い感覚を生かして若い人向けの花づくりも手掛けたいとの夢。大いに頑張ってほしいものです。鉢物を購入希望の方は下記へお問い合わせください。

見沼区宮ヶ谷塔 1-41 TEL.048-683-6314

大島弘行さん▶



わくわく広場ステラタウン大宮店



全国各地からの良品を扱っていて、野菜などは店頭からはみ出さんばかりに新鮮な旬の野菜や果物が並んでいます。その中には埼玉産や見沼産、そして見沼たんぽの農産物も。それぞれに生産者の名

小島農園

小島農園の園主小島克之さんは、第21代目であり、2代の植栽を家業とし「春夏秋冬、新芽・新緑・蕾・花・紅葉・実・果実と見所の多い木は楽しい」をモットーに、広大な土地(3町)に40~50種類の植木類を植栽しています。6年前に父親を亡くし、従来の営業畑／販売一本から植栽を行ふことになり、挿し木、苗床等の多くの苦労をしながら、今日の地位を築きました。植栽の種類や特徴を熱心に笑いながら植栽愛をもって語ってくれました。また、息子さんは立川市の同業者のもとで働いており、近い将来立派な後継者になります。

岩槻区慈恩寺 TEL.048-794-4169



▲多羅葉 (種子より10カ月)

小島克之さん▶



人と環境にやさしい農業の講演会

さいたま市(見沼たんぽ地域)の都市農業戦略

期日:5月8日(火) 14:00~16:00

場所:七里公民館 大会議室

講師:見沼農業・応援連携部会 副代表 丸山文隆氏(オーガニック・ハーベスト丸山代表)

減反政策の廃止や新しい農業委員会制度及び農地利用最適化推進委員の委嘱など、新たな農業政策の展開の中で、今後の見沼たんぽ地域の都市農業戦略について、さいたま市有数の新進気鋭の農業経営者さんとしてのお考えを60分程度お聞かせいただき、その後、意見交換をさせていただきます。

連絡先:北原典夫 TEL.090-2675-1684 (未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会)



▲そごう大宮店 直売コーナーの丸山ファミリー

講演会

Information

「見沼龍神行列」と氷川女體神社の
磐舟祭祀場での「祇園祀り」ツアー

平成30年5月4日(金・祝)

見沼の龍神伝説のある国昌寺の「開かずの門」をとおり、氷川女體神社までの龍神行列に随行。見沼の干拓以来、磐舟(いわぶね)祭祀場で行われてきた龍神に祈りをささげる「祇園祀り」を見学。

集合 10:30 東浦和駅前 10:40⇒バス停総持院 10:51→総持院→国昌寺→12:00 龍神行列に参列→氷川女體神社→見沼氷川公園(昼食)→13:00 磐舟祭祀場での祇園祀り→見沼氷川公園・解散 14:00→バス停芝原小学校⇒東浦和駅

参加費:300円 昼食持参



見沼・鷲神社「龍頭の舞祀り」ツアーゲー

平成30年5月13日(日)

今から930年程前の「後3年の役」。兄、源義家を助けて、弟の源義光が奥州に向かう途中、この地で、軍兵の士気を鼓舞するため、「鷲大明神に奉納した舞」が伝わったとされています。

三頭の獅子を中心に、龍が天に昇るがごとく、また地を這う如く華麗で勇壮な舞で、永い歴史があります。

東浦和駅前 9:00 集合

東浦和駅 9:28⇒バス停・総持院 9:37⇒10:00 鷲神社の龍頭の舞祀りに参加⇒見沼自然公園 12:00 解散(昼食)⇒バス停・緒切橋→大宮駅 13:30

参加費:300円 昼食持参



上記のお申込み:見沼たんぽ地域ガイドクラブ

北原ガイド TEL.090-2675-1684 FAX.048-834-5731 メール minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2018年春号 vol.7

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp
バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アーツ

発行日: 2018年4月5日

We
Love
Minima

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、三菱 UFJ ニコス株式会社様、トヨタレクサス様からの助成金で印刷・発行しております。